

黄熱病発生に伴うウガンダ出入国検疫強化について

ウガンダ国内での黄熱病発生に伴い、ウガンダ保健省は下記のとおり出入国検疫強化の状況について報じています。

4月21日ウガンダ保健省は、ウガンダの首都カンパラ市の南西約130キロにあるマサカ地域において黄熱病の発生を確認したと発表しました。3月マサカ地域において、黄熱病の発症が疑われる6名の患者が特定され、同患者の血液サンプルがウガンダ・ウイルス研究機関に送付さ、黄熱病であることが確認されました。これまでに、2名の黄熱病による死亡が確認されています。なお、3月だけで200名の死者数を記録したアンゴラその他、コンゴ（民）及びケニアにおいても黄熱病の被害が発生しております。

4月21日ウガンダ保健省は、出入国検疫強化のため、ウガンダに入国及び出国する際には、全ての旅行者に対して黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の提出を要求すると発表しています。

つきましては、ウガンダに渡航・滞在を予定されている方におかれましては、報道や在ウガンダ日本国大使館からの最新の関連情報を入手すると共に、渡航情報（危険情報）も確認の上、安全対策に努めて下さい。

ウガンダ保健省

MINISTRY OF HEALTH REPUBLIC OF UGANDA

<http://www.health.go.ug/>

<http://www.health.go.ug/press-release>

以上